

第 16 回東京低地河川活用推進協議会 議事要旨

日時：平成 29 年 2 月 21 日（火）10:00～12:00

場所：江東区森下文化センター 第一研修室

（１）第 15 回推進協議会における議事内容の確認

■「第 15 回推進協議会 議事要旨」について説明

○内容については了承された。

（２）「自己責任を基本とした船着場利用ルール」平成 28 年度社会実験結果

■資料『自己責任を基本とした船着場利用ルール』平成 28 年度社会実験結果』について説明

○今年度の社会実験の結果について、以下の意見が出された。

- ・社会実験の目的の一つとして、船着場を利用する際の自己責任のルールをいかに浸透させるかという観点がある。ルールを知らない・守らない人にいかにルールを伝えるかが課題である。
- ・ボート活動では、ボート利用時は河川敷のゴミ拾いを行っている。そのように船着場利用者が一緒に行うようなルールづくりもあった方が良いと思う。
- ・申請しないで船着場を使っている人たちは、船着場を積極的に使っている。そういった利用者を取り込んで意見を聞いていくことが課題。
- ・船着場を頻繁に利用していれば、自然と不適切な利用はなくなると思う。
- ・船着場に利用ルールを柔らかい表現で表示してはどうか。
- ・船着場利用ルールは船に乗る人だけのものではない。船着場や河川敷でイベントを開催し、付近の学校に呼びかけ子どもに参加してもらおう。その際、利用ルールを子供たちに教えてはどうか。
- ・自由使用だが、管理瑕疵を問われないようなルールづくりが必要。本省水政課、外部法律専門家と相談しながらルールづくりを考えていくべき。
- ・管理瑕疵は時代と共に変わる点も考慮していく事が課題。
→最終目標として船着場の自由使用を目指しているが、現時点は課題の洗い出しの段階である。管理瑕疵と利用促進のバランスが課題だと考えている。
- ・長時間の停泊には、船着場とは別に船を停めておく箇所が必要ではないか。
- ・荒川左岸には使いやすい船着場がない。荒川の魅力再発見を意識してほしい。社会実験の期間を通じて、堀切RSを売り出してはどうか。
- ・旅行会社をメインに社会実験を進めていくと、当初目的と異なる方向に向かう懸念がある。
- ・船着場利用者の意見を聴くことで、維持管理に繋げていく事ができるようにしてほしい。

- ・船の運航時、水深を知るために、ナビマップは有効。適宜更新して公表すべき。
→今後、内容の改定に取り組んでいきたい。

(3) 船着場利用社会実験の今後の進め方

■資料「船着場利用社会実験の今後の進め方(案)」について説明

○今後の船着場社会実験の進め方について、以下の意見が出された。

- ・未来永劫的なルールと、社会実験時のルールが現在混在しているので、これを整理する必要がある。管理瑕疵を問われない全国に波及するルールづくりを整理してほしい。
- ・現場を使っている人に関わってもらいながらルールづくりを考えてほしい。
- ・船着場についても、普遍的な使い方と、暫定的な使い方があると思うので整理して検討してほしい。
- ・最終目標に向けて、現在考えておくべき課題を検討してほしい。
- ・阪神淡路大震災などでは、プレジャーボートは災害最初の1～2日間は救助等で活動している。大きな船は船長らが揃わないと動かさないなので、プレジャーボートの災害時の役割はある。
- ・船着場を認知していれば災害時に使われることとなる。大きな船と小さな船を交通整理してうまく船着場を使っていけるようにする事が課題である。

以上